

コリント人へ手紙第一 1章4節～9節

はじめに

昨年から、新約聖書「コリント人への手紙第一」から、みことばを学び始めましたが、今朝は、2回目で1章4節から9節の箇所から「使徒パウロの感謝、使徒の励まし、感謝と励ましの根拠」を学び、主に従う決意を新たにしましょう。

1 使徒パウロの感謝（4-7）。

（1）キリスト・イエスによって与えられた神の恵み（4）。

使徒パウロは、あなたがたのことをいつも神に感謝しています、と語っていますが、コリント教会は、これから学んでいくと分かりますが、問題の多い教会でした。しかし、パウロは、先ず感謝しています。

適用：感謝することは、とても大切です。例えば、人にあったり、電話で話したりするときに、まず相手に感謝することはないかを考えて、感謝のことばから始めることは、とても大切なのです。

パウロが感謝したのは、「キリスト・イエスによって与えられた神の恵み」です。

神の恵みは、新約聖書のキーワードの一つです。それは、私たちに対する思いだけでなく、神の働きです。

この恵みは、キリスト・イエスによって与えられました。キリストが私たちにもたらしてくださった恵みは何でしょうか。それは、罪の赦し、神の子なる特権、永遠のいのちです。

（2）すべてにおいて豊かな者とされた（5）。

このキリスト・イエスによって与えられた神の恵みによって、救いを得ただけでなく、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたと、パウロは語ります。

その例えとして、「ことばと知識」をあげていますが、コリント教会の信徒は、福音に対する理解とあかしをしっかりと持っていたということでしょう。

(3) キリストについてのあかしが、確かになった(6)。

コリント教会がなぜそのように、すべてにおいて豊かな者とされたかと言うと、キリストについてのあかしが、確かになったからだ、パウロは語ります。コリント教会がパウロの語るキリストの福音を受け入れ、それにしっかりと立つようになったので、神の恵みにあずかったのです。

その結果は、先にも述べたように、「どんな賜物にも欠けることがない」者となりました。

さらに、主イエス・キリストの現れを待つようになったのです(7)。

適用：教会は、どのようにして、すべてにおいて豊かになり、どんな賜物にも欠けることのない教会になれるのでしょうか。それは、キリストのあかしが、教会に確かなものになることです。教会のうちに、キリストのあかしが確かになれば、豊かな教会へと成長するでしょう。

2 使徒の励まし(8)。

(1) 最後まで堅く守ってください。

使徒パウロは、コリントの教会が主イエス・キリストの現れを待つ教会となったことを語りましたが、その日まで(最後まで)、堅く守ってくださいと励ましました。これは「聖徒の堅忍」という教理です。つまり、一度主の者となった者は、最後まで主は守ってください、見捨てられることはないのです。

(2) 主イエス・キリストの日に責められるところのない者として。

何という恵みでしょう。私たちは、こんなにまで、不完全で、不従順であるのに、キリストにお目にかかる時には、責められるところのない者としてくださるとは。

適用：神の恵みに感謝しましょう。神様は、私たちが神の前に責められるところのない者としてくださるのです。これこそ恵みです。私たちは自分の力や努力で、自分をそ

のような者にすることができるでしょうか。

3 感謝と励ましの根拠 (9)。

使徒パウロは、この手紙の初めの挨拶をこのことばでまとめています。この一節は、この手紙全体のキーワードとも言うべきことばです。

(1) 神は真実であり。

パウロは、テモテに書いた第二の手紙の2章13節で「私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである」と語りました。神は常に真実です。うそ偽りのない方です。ヤコブは「父には移り変わりや、移り行く影はありません」と語りました(ヤコブ 1:17)。

(2) その方の召しによって、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。

その方、つまり真実な方が私たちを召して、キリストとの交わりに入れてくださったのだから、最後まで堅く保ってくださいなのです。

主イエス・キリストとの交わり。これは私たちがクリスチャンになったことの意味を表すもう一つのことばです。「義とされた」「罪が赦された」「神の子どもとなった」「永遠のいのちが与えられた」など、いろいろな言い方がなされますが、ここでは「主イエス・キリストとの交わりに入れられた」とあります。

このことは、何とすばらしいことではありませんか。主との交わりです。主を知り、主の聖さにあずかり、主の恵みと力を頂き、天の祝福にあずかるのです。

適用：私たちの信じる神は真実です。そして、私たちは、主との交わりに入ったのです。そして、この主との交わりこそ、クリスチャンと教会のすべてです。主との交わりによって、私たちと教会は生かされ、活動します。主との交わりがなければ、私たちにも、教会にもいのちも活動もありません。

結論

使徒パウロは、コリント教会にキリストのあかしが確かなものとなり、その結果、すべての賜物を豊かに与える教会となっていることを感謝しました。そして、キリストが再びお出でになる日まで、主はコリント教会の信徒を堅く守ってくださると励ましました。その根拠は、主は真実であり、コリント教会の信徒を主との交わりに入れてくださったからです。

私たちも、神の恵みと主の守りを確信し、感謝と喜びに溢れて歩みましょう。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」（Ⅰヨハネ 4:10）

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」（黙示録 3:20）

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒の働き 16:31）